



Title	阪大法学 59巻 総目次
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2009, 59(6)
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/55340">https://hdl.handle.net/11094/55340</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

阪大法学 第五九卷 総目次 (一～六号)

論 説

派遣先による派遣労働者の直接雇用

——正すべき誤解——……………小 寫 典 明 一 一

修正期に至るEUの情報基盤政策(一)……………田中規久雄 一 一一

背任罪における任務違背(背任行為)に関する一考察(二)……………品田智史 一 一〇一

平等保護における動機審査の意義……………中曾久雄 一 一五三

会社分割と事業譲渡規制の類推

——商号続用責任を中心として——……………山下眞弘 一 二二五

破産者死亡の場合における破産財団の範囲

——自由財産と新得財産の処理に関する一考察——……………藤本利一 一 二二三

背任罪における任務違背(背任行為)に関する一考察(二・完)……………品田智史 一 二四七

「科学的経営管理」運動とナチズム

—— D I N T A からドイツ労働戦線へ——……………小野清美……………三・四五……………四六七

社会資本、信頼と民主主義……………河田潤一……………三・四六七……………五二九

民事司法と民主主義……………池田辰夫……………三・四一〇七……………五六九

採用の自由とその制約

—— 求められる慎重な議論——……………小寫典明……………三・四一二五……………五八七

汎スラヴ主義と露土戦争

—— 大改革後ロシアの保守的ジャーナリズムにおけるナショナリズムの諸相——……………竹中浩……………三・四一五五……………六一七

……

安保条約と吉田外交

—— 豊下櫛彦『安保条約の成立』を読む——……………坂元一哉……………三・四一七九……………六四一

大阪帝国大学設立の政治過程

—— 大阪財界と浜口雄幸内閣——……………滝口剛……………三・四二一五……………六七七

米国連邦民事訴訟規則におけるEーディスカバリー規定の導入とその現状

……藤本利一……………三・四二四一……………七〇三

経済政策提言と小泉政権期の経済政策……………上川龍之進……………三・四二六七……………七二九

戦後アメリカ対中政策の起源

—— 「二つの中国」政策の形成過程——……………高橋慶吉……………三・四三〇一……………七六三

修正期に至るEUの情報基盤政策(二・完)	田中規久雄	五	一	七九七
二〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成(一)				
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか——	上川龍之進	五	六七	八六三
民主主義のもとでの司法審査				
——権限アプローチの構築に向けて——	中曾久雄	五	九三	八八九
企業の弁護士役割観は変わりつつあるのか				
——弁護士業務に関する三つのアンケート調査から——				
.....	福井康太 福井祐介	六	一	一〇三五
二〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成(二・完)				
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか——	上川龍之進	六	四九	一〇八三
商標の機能としての安全性保証機能(一)				
——知的財産法と消費者法の交錯の一場面——	勝久晴夫	六	八三	一一一七
「公法」におけるコントロール概念(一)				
——ドイツにおけるコントロール概念の展開——	柴田堯史	六	一〇五	一一三九
長期的効果を有する兵器の使用と均衡性の原則				
——「予測される(expected)」——の解釈を中心に	仲宗根 卓	六	一二七	一一六一

特別寄稿

オバマ政権の核軍縮・核不拡散政策	黒澤 満	二	九五	三一九
------------------	------	---	----	-----

判例研究

未決拘禁者が購読し得る新聞紙種の制限が違法とされた事例	横内 恵	五	一二三	九一九
-----------------------------	------	---	-----	-----

翻訳

国家と私人による公共の福祉の具体化	ヤン・ツイーコウ 高橋明男／訳	一	一八三	一八三
-------------------	--------------------	---	-----	-----

ドイツにおける基本権ドグマ・ティク				
-------------------	--	--	--	--

フィリップ・クローニツヒ 松本和彦・高田倫子／共訳	二	一一九	三四三
------------------------------	---	-----	-----

ヨーロッパ法がフランス刑事法規範に与える影響			
------------------------	--	--	--

カロリン・デュパルク 幡野弘樹・足立公志朗／共訳	二	一三九	三六三
-----------------------------	---	-----	-----

刑法における比較法研究の意義	ミケール・パーパ 松田岳士／訳	五	一四三	九三九
----------------	--------------------	---	-----	-----

資料

法律家の新しい社会的役割

——日・韓・中の比較と連携可能性——

.....

三 成 賢 次  
洪 光 植  
張 傑  
孫 恒 漢  
大 夫

二 一五五 三七九

中国法から見た日本法の透明化

——特定領域研究「日本法の透明化」国際民事

訴訟法班・国際金融法班 合同シンポジウム——

松 川 大 正 毅  
韓 大 東  
楊

五 一六五 九六一

国際裁判管轄法制に関する中間試案に対する意見

.....

「日本法の透明化」プロジェクト・  
——国際民事訴訟法班

五 一二三 一〇〇九

その他

巻頭の辞

中尾敏充

三・四 一 四六三

尹景徹教授略歴・主要著作目録

三・四 三三三 七九三